

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年2月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670201088
法人名	医療法人 卓翔会
事業所名	グループホーム 遊雅の郷
所在地	鹿児島県薩摩川内市入来町浦ノ名786 A ユニット (電話) 0996-21-4500
自己評価作成日	平成 23 年 11 月 24 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成23年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周囲は、静かで、季節を身近に感じることが出来るようになっていきます。施設の理念でもある「人間として尊厳を守り、安らぎのある生活をしていただく」を基本として入居者を中心にご家族、職員が一緒になって認知症であっても生きがいを感じて楽しく過ごすことが出来るよう、常に検討し支援をおこなうようにしています。畑の野菜植えや庭の草取りなどを一緒にしたり金柑の季節には、一緒に庭の金柑を採り甘く煮ておやつにしたりと楽しんでおられます。

職員は、認知症勉強会などの研修を始めできるだけ自分自身をスキルアップすることが出来るよう研修に参加し日々の業務に活かすようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 周囲は静かでゆったりとした田園風景が広がり、家庭的な雰囲気は漂うホームである。母体医療法人や協力医療機関とも連携は検密であり、十分な支援体制が整い、利用者やご家族からの信頼は厚いものがある。
- 運営推進会議は家族や地域住民、民生委員、消防・市役所の職員等関係者が多数参加して定期的に開催されている。事業所の現況報告や行事・課題等について活発な意見交換が行われ、業務改善や日々のサービス向上に具体的に役立てている。また、市担当者を頻繁に訪問し、運営や利用者の状況について確認・相談を行うなど連携を図り、良好な協力関係を築くように取り組んでいる。
- 利用者の思いや意見を積極的に把握するように努め、ご家族とは来所時や年2回の家族会の際に話しやすい雰囲気作りに努めて多くの意見を頂いている。特に意見や苦情については、職員が共有し、検討が行われ、速やかに対応・報告し、ホームからご家族宛の毎月のお便りでも連絡している。
- 管理者は、朝夕の申し送り時の対話の他に、月1回の職員会議での意見交換を通じて職員の意見や提案を聞き取り、業務改善やサービス向上につなげるように努めている。ホームの行事運営に際しては、事前に職員と十分対話すると共に、実施後は感想や反省点を文書で報告してもらい、次の活動に反映させている。
- 入所時のご家族からの聞き取り及び日常の対話や表情から、利用者の思いや意向を積極的に把握するように努めている。また、「できる・できないシート」を活用し介護計画に反映すると共に、ケアプランの達成状況からも必要な対応を検討して、利用者本位の支援に職員が一体となり取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念であるスタッフルーム、廊下の目に付きやすい場所に掲示し、職員会議などで確認理念に基づき支援の方向性を検討するようにしている。	事業所独自の運営理念に沿って地域との連携を大切にすると共に、利用者の立場に立って考え、行動し、個々の利用者に向けたケアの実現を目指して日々取り組んでいる。職員会議や各種の行事運営の際に理念の意義を振り返り、理解を深めるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	近隣のスーパーでの買い物や行きつけの理美容室を利用できるよう支援している。ボランティアの受け入れや祭りの際子ども会や地域の方を招いている	地域の餅つき大会や防災会議等には積極的に参加し、事業所主催の夏祭り・敬老会・夕涼み会等に地域住民の方々に参加して頂くなど日頃から交流を図っている。隣接する老人ホームとの交流、散歩の際の小中学生との会話、来訪される知人・友人・ボランティアとの交流も頻繁に行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職員が、身近なところで相談を受けることもある。施設見学の際に相談を受けたり、介護予防教室を開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や入居者の様子、行事報告をおこなっている。地域の方への発信の仕方など助言をもらったりしている	会議は家族や地域住民、民生委員、消防・市役所の職員等関係者が多数参加して定期的に開催されている。事業所の現況報告や行事・課題等について活発な意見交換が行われ、日々のサービス向上に役立てると共に、避難訓練実施方法の改善や地域での認知症予防教室開催等が実現している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に毎回担当者が出席される為、諸手続きや相談などに乗ってもらっている	市担当者を頻りに訪問し、運営や利用者の状況について確認・相談を行うなど連携を図り、防災無線の設置が決定するなど具体的に対応して頂いている。敬老のお祝いや台風接近などにはホームに来訪頂き協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束抑制廃止委員会を設けて行動制限をすることが無いように声掛けの仕方や支援のあり方について検討している	職員は利用者の所作観察を通じて「気付き」及び「見守り強化」の徹底に努めている。毎月の「身体拘束抑制廃止委員会」でも、繰り返し「相手の立場に立っての声かけ」や行動制限をしない支援の実現について話し合いを行っている。また、ご家族や近隣の人々とも連携を図り、安全確保の上で利用者の自由な暮らしを支援するための工夫にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行い関わりを持たないことも虐待のひとつになりえることなどを学習。身体抑制廃止委員会で、虐待の確認や支援のあり方について検討し職員会議で注意を促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会の福祉サービスを受けている方も居られ、家族からの相談などについても助言をもらったりしている。関連施設の社会福祉士にも相談協力ももらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時に重要説明事項を基にひとつひとつ確認しながら説明をしている疑問点には、その都度説明。年2回の家族会の際家族から寄せられた質問に関して説明をおこなっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時や毎月のお便りの中に要望がないか声掛けしている。年2回の家族会の際に要望や意見交換などをおこなっている。日ごろの生活支援の中で、話を聞き意見を取り上げるようにしている。	利用者からは日常会話を通じて思いや意見を把握するように努めている。ご家族とは来所時や年2回の家族会の際に話しやすい雰囲気作りに努めて多くの意見を頂いている。意見や苦情については職員が共有し、検討が行われ、速やかに対応・報告し、ホームからご家族宛の毎月のお便りでも連絡している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	行事の勧め方や次回に活かせるよう意見交換をおこなっている。各種委員会や職員会議など業務内容についても改善面など検討している。	朝夕の申し送り時の対話の他に、月1回の職員会議での意見交換を通じて職員の意見や提案を聞き取り、業務改善やサービス向上につなげるように努めている。ホームの行事運営に際しては、事前に職員と十分対話すると共に、実施後は感想や反省点を文書で報告してもらい、次の活動に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各種研修会への参加や積極的に資格取得を促している。週1回の幹部会議で勤務状況を把握し働きやすい環境を整うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>連携施設での勉強会だけでなく事業所外の研修にも出来るだけ参加するよう声掛けや調整をおこなっている。職員会議で伝達講習をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会には入っていないが、研修など案内をしてもらい可能な限り参加して交流がもてるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来るだけ施設見学に来ていただいて、困っていることや現在おかれている状況などを聞き入居者の生活状況を見ていただいている。来所出来ない場合は、訪問するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居相談時現在おかれている状況や困っていることなどゆっくり聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際に現在おかれている状況を確認し、自施設で直ぐに対応できない場合は、他事業所を紹介したり連絡などの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑の野菜植えや餅つきなど一緒にしていただき、指導、助言をもらっている。洗濯物たたみや食後片付けなどを率先して参加されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時だけでなく毎月のお便りや面会時に近況報告や思いなどを伝え、支援の仕方など相談するようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用支援やボランティアとして来所される知り合いの方とゆっくり話が出るように支援。夏の夕涼み会には、近隣の民生委員の方にも参加してもらっている。	利用者の知人・友人などの来所時には、リビングや個室でゆったりと過ごせるように支援している。ご家族との電話や毎月のホーム便りにも時々は利用者の手紙を同封するなど可能な対応に努めている。また、地域の行事や買い物・ドライブなどへの同行支援も積極的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お風呂や散歩の際に個別的に話をして相談に乗るようにしている一緒に散歩やレクリエーションをおこないお互いが嫌な思いをすることが無いよう職員が調整している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に施設での支援状況やその方の思いなど情報交換をおこない環境の変化によるダメージを最小限に留められるよう支援。様子伺いに行くこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中での会話や表情から思いを理解するように努めている。ご家族の面会時にも思いを確認し、支援のあり方について検討し嫌な思いをされることが無いように努めている。	入所時のご家族からの聞き取り及び日常の対話や表情から思いや意向を把握するように努めている。また、「できる・できないシート」を活用し介護計画に反映すると共に、ケアプランの達成状況からも必要な対応を検討して、利用者本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時だけでなく日ごろの何気ない会話や行動を基にご家族や来所された友人などと昔話をしたりして理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から午前、午後、夕方、夜間を通して行動や思いなど記録している。食事量、水分量、排泄パターンシートを利用しタイミングを計り声掛け誘導などの支援のあり方を検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に職員間でモニタリングをおこないケアのあり方について話し合いをしている。ご家族の面会時意見を聞きプランに反映するようにしている。毎月、プランの達成状況などを確認している。	本人・家族の意向や希望、関係者からの情報を基に職員で話し合い、きめ細かな介護計画を作成している。また3ヶ月毎にケアの経過を評価し、状態変化に対応した話し合いのもと、利用者本位の計画修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄状況などの健康状態だけでなく行動や思いを個別の記録に記載し職員が何時でも見る事が出来るようにしてある。変化のあったことは、業務日誌で申し送り、勤務開始時に確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の職員による健康チェックだけでなく訪問看護による週1回のチェックがおこなわれ早めに医療が受けられるようにしている。外に出たい時等散歩やドライブなどに出ることもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	薩摩川内市の移動図書館の利用や運営推進会議や行事の際隣接のコミュニティセンターを利用している消防署も隣接しており意見交換や協力をもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の意向を書面で確認し、出来るだけこれまでの診療が継続して受けられるよう支援。職員が付き添っている。リハビリ、眼科などご家族にお願いすることもある。	利用前の受診の経過は「インテーク用シート」に記述されており、可能な限り本人・家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。家族と連携のもとでかかりつけ医との情報交換も十分に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が、看護師であり、常に連絡が取れるようになっている。訪問看護師による週1回のチェックがおこなわれ相談、助言をもらっている。連携病院の指導、協力をもらい健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の病状説明には、職員が同席させてもらい、治療方針や退院時期についても確認。入院中の面会や経過確認など入院によるダメージを出来るだけ少なく出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や急変時の対応について入居時に書面で確認。家族会でも家族間で話し合ってもらえるよう声掛けしている。毎月のお便りや病院受診時状況報告を行い状況に応じ医師との面談の機会を設けている。	重度化や終末期のケアに関しては、入居時に事業所が対応できる基本方針を文書で説明し、本人やご家族の意向を最大限尊重している。協力医療機関との連携を密に図り、状況の変化にも職員で情報を共有し、ご家族にも病院受診の経過報告を適切に行い、事業所として可能な限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置、使用方法については、毎月職員会議の時に確認やマニュアルの確認と対応について検討をしている。普通救命講習を受講している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回職員、入居者も全員参加し避難訓練を実施。地域の防災会議にも参加し、運営推進会議や隣接の消防署とも助言や協力をもらっている。</p>	<p>隣接する消防署と連携し、利用者と共に火災を想定した避難訓練を年2回実施すると共に、行政や消防署等出席の地域の防災会議や自治会総会にも参加して助言や協力をお願いしている。スプリンクラーの設置や食料・水・衣類等の備蓄も問題なく、近隣施設の連携も十分に図られている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	汚染された時などさりげなく、なるべく他者に気づかれることが無いよう声掛けや早めに処理している。	日常の暮らしの中で、利用者の尊厳と権利を大切にされた声かけや言葉遣いを始めとする対応を心掛けている。また個人記録の仕方や保管場所、居室の保護などにも誇りやプライバシーの確保に徹底した配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉でうまく言えない方など表情をよく観察、意思決定できるように声掛けをおこなっている。食事好き嫌いを考慮献立や調理の工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の好きな時間に散歩を楽しまれている。外に出たい時には、散歩やドライブなどに出ることもある。行事など参加を無理強いすることなく見守りが出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴時の着替えの準備を一緒にしたり、入浴時の爪切りや理美容院を希望時利用できるよう支援している。外出時にはおしゃれを楽しまれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく季節を感じられるように季節の野菜を献立に入れるようにしている。野菜の下ごしらえや片付けなども積極的に参加されている。	食材の買い物から調理・盛り付け・食卓の準備・後片付け等の一連の流れを利用者と共に行い、食事を楽しみながら行う雰囲気作りに努めている。また、利用者個々の好みや健康状態に応じたメニューや調理方法にも対応し、年に数回は家族と一緒に的外食も企画している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査を参考にして毎月職員が立てた献立を連携施設の栄養士に確認してもらい指導してもらっている。食事量、水分量を毎回確認し調整。体重測定を毎月2回実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	薩摩川内市の市民健康課の歯科衛生士による口腔ケアの指導を受け毎食後の口腔ケアに活かしている。ひとり一人の能力に応じた支援をおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を基にタイミングを計り声掛けや誘導をおこない出来るだけトイレでの排泄や自立に向け支援をおこなっている。失敗しても傷つかないように早めの対処をおこなうようにしている。	排泄チェック表の活用や適宜の声かけ誘導で、利用者の不安や羞恥心の軽減も兼ねた、個人の状態に応じた排泄の自立に向けた支援を行っている。これらの結果はケアプランにも反映し、排泄用品の選択等、個々に合わせた対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートで確認をおこない散歩など身体を動かしたり、献立の工夫、水分調整などをおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は、無理強いすることなく入りたくなるような声掛けや歌を唄ったり雰囲気づくりなど工夫している。希望時に入れるよう調整などをおこなっている。	利用者の健康状態や安全面に十分配慮し、利用者ごとに浴槽の掃除・お湯の交換を行い、本人の好みや習慣に合わせて入浴を楽しめるように支援している。入浴を拒否される場合には、時間をかけてゆっくり話しするなど、利用者本位の支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に散歩やレクリエーションなど活動的に過ごしてもらい生活のリズムづくりをしている。夜間眠れない時は、傍に寄り添い飲み物や話をしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	検温表と薬袋に服薬説明書を綴り常に確認できるようになっている。臨時処方や薬の変更は、介護記録や業務日誌に記載し、申し送りをおこない勤務開始時には確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下ごしらえや食後の片付け洗濯物たたみを積極的にされている。歌を唄う時には、拍子をいれたり独唱など楽しまれている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気など過ごしやすい時間に毎日散歩の声掛けをおこなっている。ドライブや食事会などご家族にも参加してもらい楽しみにされている。	敷地は日当たりの良い庭があり、自由に散歩できる環境である。利用者の健康状態や天候を見ながら、本人の希望に沿って散歩や買い物、ドライブなどに出かけている。年に数回は地域の木市やよさこい祭りなども見物し、気分転換やストレス発散の機会として外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物と一緒にいき、好きな物を購入されるよう声掛けしている。買ってきて欲しい物を頼まれることもある。家族の了解の下現金を所持されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の取次ぎや希望時に掛けられるようにしている。遠方の方には特に声を聞かせて欲しいと依頼している。お礼の電話などご本人からしてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲は、静かな環境で窓を広く取っており、トイレ、廊下には季節の花や植物など季節を感じ取ることが出来る。各部屋は、馴染みのものを持参していただき家族の写真を飾られている。	リビングなどの共用空間は、窓も大きく明るく、室温や湿度の調整にも配慮がなされていると共に、季節の花も飾られ、落ち着いてゆったりと居心地よく過ごせるように工夫されている。園庭には小さな菜園があり、建物の周囲は日光浴や散歩ができるように、ウッドデッキや通路も整備され、静かに気持ちよくくつろげる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下にベンチがありくつろげるようになっている。話をしたり外を眺めたりして過ごされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、馴染みのテーブルや椅子寝具などを持参して過ごしやすい環境にしてもらっている。家族の写真を飾り話掛けされていることもある。</p>	<p>居室のベッドや家具、洗面台は事業所の準備品であるが、向きや配置は本人・家族の希望に沿って居心地よく過ごせるように対応している。また寝具や日用品は、希望のものを自由に持ち込んでもらい、自分の部屋として落ち着いて過ごせるよう工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>出来る出来ないシートやケアプランのモニタリングを職員間で確認し、それぞれ個々に合わせた支援の仕方などを検討。</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念であるスタッフルーム、廊下の目に付きやすい場所に掲示し、職員会議などで確認理念に基づき支援の方向性を検討するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーでの買い物や行きつけの理美容室を利用できるよう支援している。ボランティアの受け入れや祭りの際子ども会や地域の方を招いている		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職員が、身近なところで相談を受けることもある。施設見学の際に相談を受けたり、介護予防教室を開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や入居者の様子、行事報告をおこなっている。地域の方への発信の仕方など助言をもらったりしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に毎回担当者が出席される為、諸手続きや相談などに乗ってもらっている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束抑制廃止委員会を設けて行動制限をすることが無いように声掛けの仕方や支援のあり方について検討している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行い関わりを持たないことも虐待のひとつになりえることなどを学習。身体抑制廃止委員会で、虐待の確認や支援のあり方について検討し職員会議で注意を促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会の福祉サービスを受けている方も居られ、家族からの相談などについても助言をもらったりしている。関連施設の社会福祉士にも相談協力をもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時に重要説明事項を基にひとつひとつ確認しながら説明をしている疑問点には、その都度説明。年2回の家族会の際家族から寄せられた質問に関して説明をおこなっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時や毎月のお便りの中に要望がないか声掛けしている。年2回の家族会の際に要望や意見交換などをおこなっている。日ごろの生活支援の中で、話を聞き意見を取り上げるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	行事の勧め方や次回に活かせるよう意見交換をおこなっている。各種委員会や職員会議など業務内容についても改善面など検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各種研修会への参加や積極的に資格取得を促している。週1回の幹部会議で勤務状況を把握し働きやすい環境を整うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>連携施設での勉強会だけでなく事業所外の研修にも出来るだけ参加するよう声掛けや調整をおこなっている。職員会議で伝達講習をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会には入っていないが、研修など案内をしてもらい可能な限り参加して交流がもてるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来るだけ施設見学に来ていただいて、困っていることや現在おかれている状況などを聞き入居者の生活状況を見ていただいている。来所出来ない場合は、訪問するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居相談時現在おかれている状況や困っていることなどゆっくり聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際に現在おかれている状況を確認し、自施設で直ぐに対応できない場合は、他事業所を紹介したり連絡などの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑の野菜植えや餅つきなど一緒にしていただき、指導、助言をもらっている。洗濯物たたみや食後の片付けなどを率先して参加されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時だけでなく毎月のお便りや面会時に近況報告や思いなどを伝え、支援の仕方など相談するようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用支援やボランティアとして来所される知り合いの方とゆっくり話が出来るように支援。夏の夕涼み会には、近隣の民生委員の方にも参加してもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お風呂や散歩の際に個別的に話をして相談に乗るようにしている一緒に散歩やレクリエーションをおこないお互いが嫌な思いをすることが無いよう職員が調整している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に施設での支援状況やその方の思いなど情報交換をおこない環境の変化によるダメージを最小限に留められるよう支援。様子伺いに行くこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中での会話や表情から思いを理解するように努めている。ご家族の面会時にも思いを確認し、支援のあり方について検討し嫌な思いをされることが無いように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時だけでなく日ごろの何気ない会話や行動を基にご家族や来所された友人などと昔話をしたりして理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から午前、午後、夕方、夜間を通して行動や思いなど記録している。食事量、水分量、排泄パターンシートを利用しタイミングを計り声掛け誘導などの支援のあり方を検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に職員間でモニタリングをおこないケアのあり方について話し合いをしている。ご家族の面会時意見を聞きプランに反映するようにしている。毎月、プランの達成状況などを確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄状況などの健康状態だけでなく行動や思いを個別の記録に記載し職員が何時でも見る事が出来るようにしている。変化のあったことは、業務日誌で申し送り、勤務開始時に確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の職員による健康チェックだけでなく訪問看護による週1回のチェックがおこなわれ早めに医療が受けられるようにしている。外に出たい時等散歩やドライブなどに出ることもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	薩摩川内市の移動図書館の利用や運営推進会議や行事の際隣接のコミュニティセンターを利用している消防署も隣接しており意見交換や協力をもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の意向を書面で確認し、出来るだけこれまでの診療が継続して受けられるよう支援。職員が付き添っている。リハビリ、眼科などご家族にお願いすることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が、看護師であり、常に連絡が取れるようになっている。訪問看護師による週1回のチェックがおこなわれ相談、助言をもらっている。連携病院の指導、協力をもらい健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の病状説明には、職員が同席させてもらい、治療方針や退院時期についても確認。入院中の面会や経過確認など入院によるダメージを出来るだけ少なく出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や急変時の対応について入居時に書面で確認。家族会でも家族間で話し合ってもらえるよう声掛けしている。毎月のお便りや病院受診時状況報告を行い状況に応じ医師との面談の機会を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置、使用方法については、毎月職員会議の時に確認やマニュアルの確認と対応について検討をしている。普通救命講習を受講している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回職員、入居者も全員参加し避難訓練を実施。地域の防災会議にも参加し、運営推進会議や隣接の消防署とも助言や協力をもっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報法の取り扱いについては、勉強会などをおこないトイレ誘導時や汚染時にはプライドを損ねることが無いよう声掛けなどにも注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように声かけをするようにしている。また、会話や表情から汲み取り対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の人格を尊重し個々に合った声掛けをおこない無理強いしないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	二ヶ月おきに訪問理髪の方が来られ利用できるよになっている。馴染みの美容室を利用できるように支援もおこなっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の好みや嚥下機能に合わせ形態や調理の工夫をおこなっている。配膳の準備などを一緒におこなってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立内容を連携施設の栄養士に確認指導をもらっている。食事量、水分量を確認しこれまでの食生活などひとり一人の状況に合わせて調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	薩摩川内市健康指導歯科衛生士による介護予防口腔ケア指導の下、入居者の口腔ケアに活かしている。入居者の能力に応じ介助を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートで、タイミングを計り声掛けや誘導をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩やレクリエーションなどに参加してもらい、身体を動かしたりリズム正しい生活が出来るように支援している。食事のバランスや便秘にならないよう献立にも工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	隔日おきに入浴の声掛けをおこなっている。汚染時や希望時は、随時入れるようにしている。湯の温度も出来るだけ好みに応じ調整している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごせるようにレクリエーションや散歩など声掛けしている。消灯時間は強制せず、不安感のある時は、寄り添い話をしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個々の薬袋と検温表に綴じ直ぐに確認できるようにしてある。内服の変更、臨時処方については、業務日誌記載し申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に食事の調理や配膳をされている。読書や新聞を読んだり、踊り、歌を唄ったりと自分の好きなことを自由に楽しまれている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	施設周りを自由に歩かれている。天気の良い日には、過ごしやすい時間に散歩へ行くようにしている。本人の希望があれば状況に応じ職員とドライブに行くときもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	一緒に買い物に行き好みの菓子や果物などを購入されている。ご自分でお金を支払えるよう支援している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	電話の取次ぎや希望時に電話が出来るように支援している。小包が届いた時は、お礼の電話をしてもらっている。手紙を書かれた時は家族面会時や郵送をしている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	玄関、食堂に季節の花や植物を飾って季節を感じられるようにしている。食堂、廊下に温度計や湿度計を設置し、調整をおこない快適に過ごせるようにしている。		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	玄関、廊下、食堂の近くには、ベンチやソファが設置され入居者同士で会話を楽しまれたり、日向ぼっこをされたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで愛用されていた日用品、衣類を持参されている。家族の写真などを居室に飾られている方もおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で、出来ることはしていた だき、出来ない部分をひとり一人のペースに合わせて支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない